

令和2年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 石川 和明

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～話し合い活動の充実を通して～
地域に開かれた教育課程

2 研究主題設定の理由

本校は、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校」として、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできたことを土台とし、昨年度は、海田中学校区で道徳教育改善・充実総合対策事業メニュー3の指定を受け、「特別の教科 道徳」と「総合的な学習の時間」及び「生活科」の学習を中核としながら、「深く考える力【スキル】」「主体的に学ぶ意欲【意欲・態度】」「自己を理解する力【価値観・倫理観】」の3つの資質・能力の育成に向けて、「課題発見・解決学習」の単元開発を行うとともに、カリキュラム・マネジメントにより、これまでに開発した「課題発見・解決学習」の単元の評価・改善を行い、児童が目的意識をもって学び続けることができるよう、より質の向上をめざした授業づくりを行ってきた。また、より対話的で協働的な学びのある授業を行うために、「思考スキル」や「思考の視点」を明確化したり、話し合い活動の場の工夫をしたりするとともに、発問により児童の思考を深める指導方法の在り方についても研究を重ねてきた。「特別の教科 道徳」の授業づくりにおいては、「体験活動」と「学び」をつなぎ、児童の自己肯定感を高める道徳学習プログラムの開発に取り組んだ。

これらの取組により、学習への見通しをもち、課題解決に意欲的に取り組んだり、思考スキルを意識し、話し合いなどにより思考を深めたり広げたりしながら、協働的に課題解決に取り組もうとする児童の姿がみられるようになった。また、対話的で協働的な学びを意識した授業づくりへの教員の意識の変容がみられた。一方、学び合いの場では、児童が自分の考えを積極的に伝えたり、根拠を明確にしながらかつ多様な方法で表現したりしようとするには、課題が残った。また、児童の知識・技能をつないだり、思考をより深めたりできるような教師の発問の工夫や、単元全体を見通しながら、課題解決につなげる学習の振り返りの場を意図的に設定したり、時間を十分に確保したりし、振り返りの内容を次の学習に生かしつなげることなどには、引き続き課題がみられる。

昨年度までの課題をふまえ、今年度は、「算数科」と「特別の教科 道徳」の学習を中核にしながらかつ、育成したい資質・能力を「知識・技能」「思考力・表現力」「主体性・自己理解」に焦点化し、単元構成や学びのサイクルによる学習過程の工夫を通して、課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業づくりを行うとともに、教師による発問の工夫、「思考スキル」の明確化、話し合い形態の工夫、思考の可視化など、話し合い活動を充実させた思考の場の工夫を行うことで、根拠を明確にし、互いの考えを積極的に伝え合い、より思考を深めたり広げたりする児童の姿を実現したい。また、児童の学びを省察する場の工夫を行うことで、学びをつなぎ、自己の変容に気付いたり自己肯定感を高めたりすることができるような振り返りの場として充実させる。

児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るためには、児童の実態や課題をふまえ、学校全体が共通認識のもとで、学習基盤としての学習環境づくりと集団づくりや、支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化、読書活動の推進、スキルタイム（のびっこタイム）等の取り組みを推進していく。

3 研究仮説

対話的で協働的な思考の場を充実させた授業づくりを行えば、主体的・協働的に学び、自分の考えを深めることのできる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

- 課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業
 - ・アンケートやレディネステストによる児童の実態把握
 - ・単元構成の工夫 「単元デザイン」及び「道徳学習プログラム」の作成（学年1以上の「道徳学習プログラム」を作成する。）
 - ・学びのサイクルによる学習過程の工夫 学習計画による課題の共有「導入」「思考を深める」「振り返り」
 - ・マネジメントサイクルに基づくカリキュラム（年間指導計画）の評価・質的改善

- 話し合い活動を充実させた思考の場の工夫
 - ・既存の知識・技能をつないだり、活用・発揮したりできるような発問の工夫
 - ・「思考スキル」の明確化
 - ア 論理的思考
 - イ 創造的思考
 - ・思考ツールや板書による思考の可視化
 - ・話し合い形態の工夫「ペアトーク」「グループトーク」
 - ・根拠を明確にした多様な表現活動

- 学習としての「評価」の充実
 - ・児童が学びを省察する場の工夫
 - ア 「振り返り」の視点の明確化（学習内容・自己変容・自己肯定感）
 - イ 学びのつながりを意識した振り返り
 - ウ ポートフォリオの活用（ノート、ワークシート等）
 - エ ルーブリックによる評価（自己評価、他者評価、教師の評価）

(2) 環境づくり

- 児童の意欲を育む学習基盤づくり
 - ・共感的・協働的な学級集団づくり
 - ・学習環境づくり
 - ・授業のユニバーサルデザイン化

- 日常的な取組
 - ・読書活動の充実（読書タイム、読み聞かせ）
 - ・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

5 研究の方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

- 育成したい資質・能力の定義の共有
- 教科の特性を生かした授業づくりのポイント
- 学級集団づくりや学習環境づくりの視点の共有

(2) 授業研究（一人一回以上の授業研究を実施）

○授業実践を参観し、視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ、有効な手立てについて検証するための協働的な研究授業
- ・前回までの研究授業の課題を改善し、提案する研究授業

ア 学年部会で、「単元デザイン」（単元構成）または「道徳学習プログラム」の作成を行う。

イ 学年部会で、指導案を作成、検討、修正をする。

ウ 学年で事前授業を行い、指導案の修正をする。

エ 全体授業研修または学年ブロック授業研修を行う。

- ・「算数科」、「特別の教科 道徳」、「総合的な学習の時間」または「生活科」の授業研究を行う。（2学級の学年においては、「算数科」及び「特別の教科 道徳」の授業研究を行う。専科や特別支援学級については、研究主題に沿うものであれば教科を問わない。）

- ・「単元デザイン」または「道徳学習プログラム」は、事前に研究主任と連携し学年部で検討・作成してから、本単元の学習に入ることとする。

※算数科においては、レディネステストを実施し、児童実態の把握後作成を行う。

- ・学習指導案の起案は早めに行い、授業の2週間前までに決済を受け、研究主任に提出する。

- ・学年部で3日前までに印刷、配布をし、参観者は事前に熟読する。全体授業指導案は講師の先生にも2週間前には送付する。

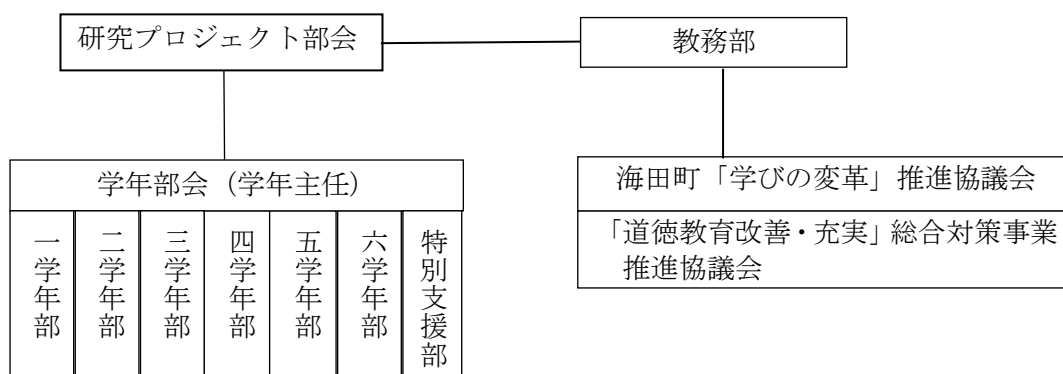
- ・授業終了後には、授業者は、協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を速やかに作成し、起案する。

- ・初任者研修の示範授業と兼ねることができる。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 研究授業の検証（成果物、授業記録、事後協議）
- (2) 学力調査の結果分析
- (3) 児童及び教職員の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科・日本語教室担当は各学年部に入り、研究に参加する。

※専科・日本語学級担当の授業研究は、授業実施学年の該当する学年部会で検討を行う。

※全体研究においては、授業記録（ビデオ・写真等）及び指導案印刷配布・協議会会場準備などの役割分担を行う。

※学年ブロック研修は、学年主任が中心となり研究主任と連携しながら該当学年部で運営を行う。